

- 問1 日本の工業地帯や工業地域は、関東地方から九州北部にかけて、瀬戸内海沿岸などを通り帯状に連なるように集中しています。この日本最大の工業集積地域を何と呼びますか。 (2021年 愛媛県公立入試 類似)
1. 太平洋ベルト                      2. 日本海側工業地帯                      3. 山陰・北陸産業ライン                      4. 中央高地工業地域
- 問2 宮崎平野や高知平野では、黒潮（日本海流）の影響による温暖な気候を活かし、きゅうりやピーマンなどの作物の成長を早め、他の地域よりも出荷時期を早めて生産する工夫が行われています。このような栽培方法を何といいますか。 (2020年 沖縄県公立入試 類似)
1. 有機農業                      2. 近郊農業                      3. 促成栽培                      4. 抑制栽培
- 問3 ロボット技術や人工知能（AI）、ICTなどの先端技術を活用することで、作業の自動化や負担軽減を図り、高品質な作物の生産を目指す新たな農業の取り組みを何というか。 (2025年 徳島県公立入試 類似)
1. 促成栽培                      2. 地産地消                      3. 有機農業                      4. スマート農業
- 問4 日本の大規模な畑作地帯などにおいて、同じ土地で同じ作物を栽培し続けることで発生する「連作障害」を抑え、土地の生産力を維持するために行われる工夫について説明したものととして、最も適切なものはどれですか。 (2026年 栃木県公立入試 類似)
1. 耕地をいくつかの区画に分け、一年ごと、あるいは数年ごとに異なる種類の作物を順番に栽培する。                      2. 一年間に同じ土地で二回、同じ作物を栽培することで、年間の合計収穫量を増やす。                      3. 温暖な気候やビニールハウスを利用して、他の地域よりも作物の出荷時期を早める。                      4. 一年間に同じ土地で、時期をずらして二種類の異なる作物を栽培し、土地の利用効率を高める。
- 問5 日本の重化学工業の分布において、千葉県、三重県、岡山県、大分県といった太平洋や瀬戸内海の沿岸部に、石油化学コンビナートが集中して立地している主な理由を説明したものととして適切なものはどれですか。 (2022年 福岡県公立入試 類似)
1. 製品の原料となる石炭が日本の沿岸部で大量に産出されており、採掘現場から直接工場へ搬入するのに都合がよいため。                      2. 内陸部での工場建設が法律で制限されたため、広大な土地を確保しやすい埋め立て地を中心とした臨海部へ拠点を移したため。                      3. 工場の稼働に必要な電力を大量に確保するため、水力が豊富な内陸部の急峻な河川に近い場所が選ばれたため。                      4. 原料となる原油のほぼ全量を海外からの輸入に頼っており、大型タンカーが直接接岸して効率よく荷揚げを行う必要があるため。
- 問6 日本の都市化の過程で建設された「ニュータウン」の背景や特徴について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
1. 農村部での過疎化を食い止めるため、伝統的な街並みを維持しながら観光客を呼び込む目的で開発された。                      2. 都心の再開発を進めるため、古くなったビルを取り壊して企業のオフィスや官公庁を集中させた地区である。                      3. 工場の海外移転によって生じた広大な跡地を利用して、大規模な物流拠点や工業団地として整備された。                      4. 都心部の地価高騰により、居住機能を郊外の丘陵地などへ計画的に分散させる目的で建設された。
- 問7 日本の発電所の分布を見ると、火力発電所が内陸部ではなく沿岸部に集中して立地しています。その主な理由として適切な説明はどれですか。 (2026年 熊本県公立入試 類似)
1. 国内の内陸部にある主要な鉱山から水運を利用して直接燃料を運搬するため。                      2. 海外から大型船舶で運ばれてくる石炭や天然ガスなどの輸入燃料をスムーズに受け入れるため。                      3. 発電時に発生する二酸化炭素を、海中に直接吐き出して中和させる必要があるため。                      4. 発電機の冷却水として、海水ではなく内陸部の淡水を大量に確保するため。
- 問8 宮崎平野や高知平野で行われている、冬の温暖な気候を利用してビニールハウスなどで野菜の成長を早める「促成栽培」の特徴について説明したものととして、正しいものはどれですか。 (2019年 福岡県公立入試 類似)
1. 化学肥料の使用を抑え、自然の気候のみを利用することで環境負荷の少ない農業を目指している。                      2. 広大な土地を利用して、機械化による生産コストの削減を徹底することで利益を上げている。                      3. 出荷時期を他産地とずらすことで、市場価格が高い時期を狙って出荷し、収益性を高めている。                      4. 大消費地である東京や大阪に隣接しているため、輸送距離の短縮による低価格販売を実現している。
- 問9 日本の貿易相手地域において、アジアが輸出入のいずれにおいても5割を超える圧倒的な割合を占めるようになった背景として、最も適切な説明を選びなさい。 (2016年 大分県公立入試 類似)
1. アジア諸国からの輸入の大部分が原油や石炭、鉄鉱石といったエネルギー資源や鉱産資源に限定されるようになったため。                      2. 日本の多くの企業がアジア諸国に生産拠点を移転し、現地で製造された製品や部品を輸入するなどの国際分業が進んだため。                      3. 日本国内の食料自給率を向上させるために、アジア諸国から主要な穀物である小麦やトウモロコシの全量を輸入しているため。                      4. 北アメリカやヨーロッパ諸国が日本に対して関税を大幅に引き上げたことで、それらの地域への輸出がほぼ途絶えたため。
- 問10 2010年代の日本の輸入構造において、中国からの電気機器の輸入額が、かつて最大だったアメリカ合衆国を大きく上回るようになった背景として、最も適切な説明を次の中から選びなさい。 (2018年 鳥取県公立入試 類似)
1. アメリカ合衆国が日本への製品輸出を制限し、中国がその代替供給元として選ばれたため。                      2. 中国が自由貿易協定によって日本からの電気機器の輸入を全面的に禁止したため。                      3. 日本国内の電気機器メーカーがすべて閉鎖し、日本国内での生産が完全に行われなくなったため。                      4. 日本企業が生産コストを抑えるために中国に工場を建設し、現地で生産した製品を輸入するようになったため。
- 問11 地方移住者の生活の変化を調査したデータにおいて、約45%の人が「減った」と回答している項目がある一方で、半数を超える約55%の人が「増えた（広くなった）」と回答している項目があります。この「増えた（広くなった）」に該当する項目として正しいものを選びなさい。 (2019年 徳島県公立入試 類似)
1. 生活を維持するために支払う光熱水費                      2. 自宅や敷地などの居住スペース                      3. 日常生活における買い物や移動の利便性                      4. 仕事を通じて得られる毎月の収入
- 問12 中国地方の略地図において、山陰地方の海岸沿い、現在の島根県にあたる位置に記される歴史的な鉱山があります。戦国時代から江戸時代にかけて大量の銀を産出し、2007年に世界文化遺産に登録されたこの場所の名称を選びなさい。 (2021年 奈良県公立入試 類似)
1. 佐渡金山                      2. 石見銅山                      3. 別子銅山                      4. 足尾銅山
- 問13 日本の農業において、農業従事者の高齢化が進むことで、体力的な負担の増大や後継者不足が深刻な問題となっています。これらの要因が直接的な原因となり、以前は作物が作られていたものの、現在は長期間にわたって作付けが行われていない農地が全国的に拡大しています。このような農地のことを何と呼びますか。 (2020年 大分県公立入試 類似)
1. 耕作放棄地                      2. 干拓地                      3. 休耕地                      4. 遊休地